

大阪市立 加美南部 小学校



住所 〒547-0003 大阪市平野区加美南1-9-17
連絡先 ☎ 06-6791-2237 📠 06-6791-2163
校長 安田 信彦 **開校** 昭和19年
URL <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751726>

教育目標

人間性豊かで実践力のある子どもを育てる

重点目標(校訓)

「強く 正しく 明るい子」



運営に関する計画

【概要】子どもたちが安心・安全に学習できるようにします。子どもたちの学力・体力を伸ばします。

【年度目標】

【安心・安全な教育の実現】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。
 ○小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切に、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を78.0%以上にする。

○学校児童アンケートにおける「仲の良い友だちがいる」に対して、肯定的に答える児童の割合を95.5%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81.7%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは

好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を64.8%以上にする。

○学校児童アンケートにおける「授業がわかりやすい」に対して、肯定的に答える児童の割合を、91.6%以上にする。

○令和8年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、前年度よりも向上させる。

令和7年度：男子 47.5 女子 50.3

【学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を46.5%以上にする。

○教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月18時間54分以下とする。

○学校児童アンケートにおける「読書が好きですか」に対して、肯定的に答える児童の割合を79.0%以上にする。

校長先生からのメッセージ

校訓「強く 正しく 明るい子」

学校教育目標「人間性豊かで実践力のある子どもを育てる」

本校は、昭和19年（1944年）4月に開校し、令和6年度、80周年を迎えました。現在は、305名の子どもたちが在籍し、元気にのびのびと学校生活を送っています。子どもたちが、健やかに成長するためには、「あいさつができる」「時間を守ることができる」「ルール（きまり）を守ることができる」「話をしっかり聞くことができる」「正しい言葉づかいができる」「友だち（仲間）を大切にすることができる」など、学校生活の基本、あらゆる教育活動の基盤（土台）を身につけることが大切です。その上で、子どもたちの“自尊心”を高め、豊かに自己表現ができる人材の育成をめざしていききたいと思います。教職員一同、子どもたちのために全力で教育活動に取り組んでいきます。

校長 安田 信彦

R7年度「全国学力・学習状況調査」

国語	算数	理科
60	56	53

平均正答率(%)

●結果と概要／

本校の平均正答率は、大阪市平均に比べ国語が5ポイント、算数が2ポイント、理科が2ポイント低い。全国平均と比べては、国語が6.8ポイント、算数が2ポイント、理科が4.1ポイント下回っている。平均無解答率は、大阪市平均に比べ国語は2ポイント、理科が0.4ポイント多くなっているが、算数は0.1ポイント下回っている。全国平均と比べても、国語は1.5ポイント、理科は1.2ポイント多くなっているが、算数は0.4ポイント下回っている。国語・理科に比べて算数は無回答率が少なくなっている。平均正答率では大阪市や全国と比べて算数はそれほど差がないものもあるが、国語や理科において下回っている。また、理科は専科教員が指導している。より高度な知識と授業計画を立てることで子どもたちの理科に対する興味・関心を高め、理科学習を意欲的に取り組めるようにした。

●取組の成果と課題／

〔国語〕平均正答率は、大阪市・全国の平均正答率と比べて、全体で5ポイントほど下回っている。学習指導要領の内容においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」はマイナス7ポイントになっており、その他の項目よりは差は小さくなっているが、全体的にはすべての項目で大阪市・全国の平均正答率を上回ることできていない。しかし、学校アンケートで「授業はわかりやすい」と感じている児童の肯定的回答の割合が高いので、正答率の向上につなげていきたい。

〔算数〕平均正答率は大阪府・全国・大阪市と比べて、「B図形」は少し上回っているが、全体では少し低い。学習指導要領の領域別に見ると、すべての項目で下回っているわけではないが、「Dデータの活用」は5ポイントほど低くなっている。また、平均正答率は大阪市・全国と比べて2ポイントほど低くなっているが、習熟度少人数制指導や個別指導の成果が見られるところもある。

〔理科〕平均正答率は、大阪市・全国の平均正答率と比べて、A区分は差が大きくなっているが、B区分は、A区分に比べて差は広がっていないか上回っているところもある。体験活動・実験活動を取り入れた授業の取り組みが活きていると思われる。平均無解答率は、大阪府・全国・大阪市と比べて、とても低い。このことから児童がどんな問題でも最後まで意欲的に取り組んでいることがわかる。

R7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	20mシャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ボール投げ (m)	合計 得点(点)
男子	14.23	19.56	36.93	39.50	50.69	9.33	154.07	19.23	53.28
女子	13.21	17.34	36.74	36.56	37.21	10.08	135.40	12.18	51.68

●結果と概要／

・男子の「上体起こし」「長座体前屈」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」の平均値は、大阪市・全国を上回った。「反復横とび」においては、大阪市を上回った。大阪市・全国を上回っている項目が多くあり、体力合計点でも、大阪市・全国を上回ることができた。

・女子の「20mシャトルラン」の平均値は、大阪市・全国を上回った。その他の項目はすべてにおいて大阪市・全国を下回っている。そのため、体力合計点でも大阪市・全国を下回ってしまっている。

・児童質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」の肯定的な回答では、男子が96.4%(全国93.4%、大阪市93.5%)女子が79.4%(全国85.8%、大阪市85.0%)だった。男子は運動好きな子どもが多く、その成果が出ているようである。反対に、運動がそこまで好きではない女子は体力合計点に結果があらわれている。

・1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合を見ると、男子が15.0%、女子が16.1%存在することがわかった。また、1週間の総運動時間が420分以上という子は、男子69.6%・女子61.3%となっている。

●取組の成果と課題／

○昨年度「かけあし週間」「なわとび週間」という体力向上企画を実施している。運動委員会の子どもたちを中心に運動する機会を多く与えて、カードや賞状を授与することやあえて参加を強制しないことで子どもたち自身が楽しんで運動に取り組みたいという意欲を掻き立てよう取り組んだ。また、流行りの音楽を取り入れ、リズムにのせて行う工夫をした。運動行事を年間通して継続的に企画してきたことで、運動が楽しいと思える子どもたちも増えてきたように感じる。

○全学年で歩いていく全校遠足(久宝寺緑地公園)では、たてわり班で遊びを設定し、オリエンテーリングを行う。この行事一日が、身体を使う日となり、全校遠足実施前から体力をつけていかないといけないという意識をもって日ごろから活動するようにしている。6年生は、春の遠足、卒業遠足ともに約30分歩いて目的地に向かった。「遠足」にぴったりの適度な運動になった。

学校の特徴



学習活動

令和7年度から、「分かる」を作り出す「読むこと」の学習指導～分かるための7つの方法を教える～を研究主題に国語科の指導法を研究しています。

すべての学習の根幹となる、「文章を読み取る力」「豊かに表現する力」を育成することができるよう、学習を進めています。

土曜授業・公開授業

例年、土曜授業では、保護者や地域の方と連携し、「引き渡し訓練」や「防災学習」を行います。

また、別日に授業公開(参観)日として、子どもたちの普段の様子を多くの方に見ていただく機会としています。



体力づくり

年間を通して運動に親しむ機会を設定し、全校で体力づくりに取り組んでいます。例年、6月からのプール水泳で泳力指導に取り組み、高学年では、最終日には泳力の測定を行っています。

2学期は、「かけ足」、3学期には、「なわとび」に取り組み、体育科の授業時間や休み時間も体を鍛えます。個人でいろいろな技をマスターしたり、自己新記録に挑戦したりする取組を行います。体力を数値的に向上させるだけでなく、心の成長も伴うように指導しています。



たてわり活動

学年が異なる児童の交流を図るため、「ペア学年」や「たてわり班活動」を行っています。低学年から高学年の児童と一緒に活動することにより、高学年児童に責任感が育ち、豊かな情操が養われていきます。月2回程度の児童集会では、委員会の児童がさまざまな催しを企画し、全校で楽しんでいます。

